

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第2回弘前市社会教育委員会議
開 催 年 月 日	平成28年11月21日(月)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後1時35分 から 午後4時 3分まで
開 催 場 所	弘前市岩木庁舎 会議室3
議 長 等 の 氏 名	委員長 生島 美和
出 席 者	生島 美和 委員長・ 村元 千鶴子 副委員長 松本 大 委員 ・ 佐藤 義光 委員 高木 隆雄 委員 ・ 原子 修逸 委員 成田 むつ子 委員・ 安達 慶子 委員 平井 春道 委員
欠 席 者	阿部 精一 委員
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	生涯学習課長 戸沢 春次 生涯学習課総括主幹 村上 光義 弘前図書館兼郷土文学館長 伊藤 文彦 博物館長 佐々木 健一 中公公民館長 竹内 勇造 中央公民館岩木館長 三上 淳 中央公民館主幹 熊谷 克仁 生涯学習課生涯学習係長 高森 紀之 生涯学習課生涯学習係主査 葛西 修
会 議 の 議 題	「放課後子ども教室」事業の今度の計画について
会 議 結 果	・放課後子ども教室事業の事業概要、現状・課題及び今後の計画について説明後、各委員からの質問や意見を伺った。

<p>会議資料の名称</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 【事前配布資料】 ・「放課後子ども教室」事業について ・弘前市立弘前図書館及び弘前市立郷土文学館古文書等デジタル化基本計画の策定について ・弘前市立公民館管理運営規則の改正 ・「地域とともにある学校づくりに向けて～弘前市立小・中学校の教育改革に関する基本方針～」 【当日配布資料】 ・平成28年度県補助（国間接補助）事業「青森県地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業」の実施に伴う中央公民館「子どもクラブ事業」の運営委員会について ・第38回全国公民館研究集会・平成28年度東北地区社会教育研究大会・第61回東北地区公民館大会 福島大会 参加報告 ・放課後子ども教室開設箇所（地図） ・弘前市小学校区・公民館エリア（地図） ・平成28年度 教育年報
<p>会議内容</p> <p>（発言者、発言内容、審議経過、結論等）</p>	<p>○第2回社会教育委員会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 会議 4. 閉会 <p>~~~~~</p> <p>会議</p> <p>（議長）</p> <p>平成28年度第2回弘前市社会教育委員会議を開催いたします。</p> <p>定員数の確認であります。1名の欠席ということ。在任委員の半数以上が出席をしなければ開くことができません。9名が出席しており、定員に達しておりますので、会議は成立しております。</p> <p>議事録の署名委員は、村元委員と佐藤委員にお願いします。</p> <p>~~~~~</p> <p>案件 「放課後子ども教室」事業の今後の計画について</p> <p>（事務局から放課後子ども教室事業の現状及び今後の計画について説明）</p> <p>（議長）</p> <p>事務局の方から説明がありましたが、こういう点についてご質問、ご協議いただきたいというのがありますか。</p> <p>（生涯学習課長）</p>

開設の箇所数についてです。

(議長)

そういう点も含めて、皆様のそれぞれの立場から率直な疑問などをご質問いただければと思います。

(成田委員)

中身を考えるよりも、まず地域コーディネータは、どういう資格を持っていて、どのように指針を踏まえているのか、どのように配置がされているのか分からないので教えていただきたい。それから、放課後子ども教室事業の中で協力スタッフの確保が難しいということや地域住民のスタッフという言葉が出てきますが、具体的にモデルで実施しているので、どういう人たちが携わっているのか、また、今どのように実施していて、そこで実施していることで何が問題なのかが見えてこない、具体的なことなど質問できないと思います。

(生涯学習課長)

現在、放課後子ども教室事業の西小学校と第三大成小学校は、境 江利子さんという方がコーディネータをされており、その方の知り合いの方や地域の方が行っています。松原小学校は、生涯学習課の職員がコーディネータをしています。そのほかに教育推進員という方が実際にプログラムを実施して、教育活動サポーターやボランティアの方々も携わり、西小学校と第三大成小学校は行っています。

松原小学校は生涯学習課の職員がコーディネータをしていて、教育活動推進員は、2人の地域の方をお願いして行っています。

「BiBi っとスペース」ではコーディネータを市の職員が担当し、実際に現場で関わっていただいている方は、その地域によって違いがあります。第一中学校、第三中学校は地域の方々为学校に来て生徒を見たり、大学生が生徒の学習を見たり、遊ばせたりという内容で行っています。中学校はどちらかというと学習がメインになっています。同じ「BiBi っとスペース」でも児童館や学習センター、地区公民館で行っている例もあります。そこでは施設の関係する職員が対応しているため、必ずしも地域のスタッフとはなっていませんが、その会場によって違いがあります。

現在、国の補助要綱の中では、地域と学校が連携して推進していくことを想定していますので、地域コーディネータを配置して実施して欲しいということが国の要綱に書かれています。放課後子ども教室を進めていくうえでは、その地域コーディネータが必ず必要となってきますが、それが教育自立圏の中でやろうとしているコミュニティスクールにおいても、地域コーディネータを配置するという計画になっており、できれば同じ人、あるいは違う方でもお互いに連携しながらできればと考えています。

地域コーディネータの資格ですが 特に国家資格がなければならない
ということはありません。

(成田委員)

研修などはどうなのでしょう。

(生涯学習課長)

県でやっている研修はあります。市が独自でできるといいのですが、
現在、人数がもう少し増えてからと考えています。各学校での実施にあ
たっては学校関係者で集まって打ち合わせなどを行っています。できれば
全部を網羅した形で連絡・調整会議というのを年度内には1回できたら
と考えています。

(成田委員)

弘前市で地域コーディネータは何人いますか。

(生涯学習課長)

放課後子ども教室では1人です。

(成田委員)

中心になる方が現在1人だということで、その中心となる地域コーデ
ィネータの知り合いや関係性で協力スタッフや地域スタッフで実施して
いるので、何カ所運営していくかというよりも、中心となる人をどう増
やしていくのかということと一緒に考えていかないと、予算の関係もあ
りますが、どう増やすかの前にどういう人達が必要で、どういう内容で
やるかという計画が見えないため、箇所数だけ検討するのは難しいと思
います。

(議長)

今の件に関しまして他にいかがでしょうか。

(安達委員)

地域コーディネータやスタッフを増やすのはなかなか厳しそうです
し、あと予算の問題もありそんなに一気に数は増やせないということな
ので、放課後子ども教室を2年に1カ所のペースで増やしても弘前市の
全ての子どもが自力で通えるとは思えません。ですから送迎バスなど場
所を増やさなくても皆が通えるようにするなど、数が増えるというより
はみんなが通えるなど質が上がるというのが重要だと思うのでそういう
選択肢も考えてはどうかと思います。

(生涯学習課長)

学校の統廃合でもスクールバスを出したりしているので、それも一案
かと思っています。これから進めていくにあたっては、放課後子ども教室は
国の補助事業となっており、その補助が永久にもらえるといいのですが、
なかなかそういう訳にもいかないと思いますので、補助がなくなった時
にどうするかというのを考えながら、「BiBi っとスペース」はあまり予算
的にもかからなくても済むようなので、どちらかというところの方に

重点的に力を入れていきたい思いがあります。

(佐藤委員)

社会教育委員 3 年目になって放課後児童健全育成事業、いわゆる「なかよし会」と「BiBi っとスペース」、そして「学区まなびい」の違いや活動内容がようやくつかめてきています。

学童保育であるなかよし会は毎日行っていて、私も泉野のなかよし会を少し見たことがあります。そこに参加している児童は、自主的に何かをやるという捉え方でいいですか。そうではなくて、保育士の資格を持っている方がその全体を指導するということですか。

(生涯学習課長)

現場を見たことはありませんが、毎日行っているため、ある程度のカリキュラムはその場所で作られていると思います。

(佐藤委員)

来ている児童の学年が違いますよね。泉野は結構な数の参加者数だったのですが、それを指導するのですか。それとも復習とか予習とかそういう内容なのですか。高木委員の方が詳しいと思いますが。どうなのでしょう。

(高木委員)

桔梗野小学校のなかよし会を見ますと、指導はできないので指導はしません。これから宿題をやる時間だよ、ゲームをやる時間だよということとで区切ったり、読書の時間だよということとで区切ったりしながら保育という形で進めています。

(佐藤委員)

3 時間程度のものを時間割のような形でやっているのですか。

(高木委員)

時間割というよりは大体の時間でやっています。

(村元委員)

そこではそろばん教室もやっていますよね。そろばん教室の子は別の教室に行ってそろばんをやって。すごく充実していると思いました。

(高木委員)

それは各地域によって違います。

(佐藤委員)

学区まなびいは年 3 回ほど集まりがあり、そこで年間の計画などが渡って研修のような形になっていて、うちでも取り入れてみようかななどの話があるような気がします。

放課後子ども教室事業ですが、週 1 回それも必ずしも土曜日ではなく水曜日などに行われていますよね。多い所では 50 回もやっているわけですが、できれば私たちにもこんなことが行われたなど、年間こういうことをやっていますという簡単なプログラムを見せてもらえると姿が明

確になってくるのではと思います。

また、これから地域で学校を支援していくことになっていくと思いますが、場合によってはこれが一つのスタートあるいは核になっていくのかも知れませんが、具体的に何をやっているのかを私たちも知りたいです。

(生涯学習課長)

現在、西小学校、第三大成小学校が実施しているプログラムを説明します。

「BiBi っとスペース」は、特に時間割があるわけではなく、子どもたちが勉強したい時には勉強をしたり、遊びたい時には遊んだりという内容で8カ所やっています。まとめた物が手元にありませんが、去年実施した放課後子ども教室、あるいは今年の前半に実施した西小学校と第三大成小学校については資料としては出すことができます。

(佐藤委員)

大学生がプログラムなどを作っているわけではないのでしょうか。ただ子どもたちの相手しているのでしょうか。

(生涯学習課)

「BiBi っとスペース」はそうです。

(高木委員)

第三大成小学校と西小学校は他と比べると突出して数をやっているように感じますがいかがでしょうか。

(生涯学習課長)

「BiBi っとスペース」と比べると明らかに放課後子ども教室の第三大成小学校と西小学校は体験活動をメインとしてやっていますので、「BiBi っとスペース」と比べると活発にやっているイメージは受けると思います。

10月から実施している松原小学校も体験活動を中心にやっていますが、外部講師にお願いすることはしていませんので、第三大成小学校と西小学校に比べるとそれほど活発というイメージは受けないと思います。第三大成小学校と西小学校は、弘南バスにお願いしたり、ヒップホップのダンスをしたり、外部講師にお願いして体験活動をしていますので活発に見えるのかと思います。

(高木委員)

それはコーディネータですか。

(生涯学習課長)

コーディネータです。

(高木委員)

コーディネータの予算は。

(生涯学習課長)

1時間1, 380円です。

(高木委員)

実際に何回くらいでしょうか。

(生涯学習課長)

1日3時間で、週1回です。

(高木委員)

2校の1年間でどれ位になりますか。

(生涯学習課長)

コーディネータの他に教育活動推進員やサポーターがいるので、1カ所50万円くらいになります。

(原子委員)

中学校の立場ですが、「BiBi っとスペース」というものが非常に不思議な存在なのですが、第一中学校と第三中学校で水曜日の15時から18時という時間帯で実施していますが、中学生が参加しているということですがどうして参加できるのだろうかと思います。平日なので15時よりも少し後になっているのかと思いますが、開設している時間がこの時間ということですか。

(生涯学習課長)

第一中学校と第三中学校は中学校の学校内で行っており、放課後に特別教室を利用して、水曜日のその時間帯に「BiBi っとスペース」をやりますということで生徒に配布しています。

(原子委員)

16時くらいだとわかりますが、15時だとまだ教育課程が終わっていませんが開設しているということなのですね。

第一中学校、第三中学校は大きい学校で、ほとんどの生徒が部活動をしていると思いますが、この人数を見まして、隔週または毎週水曜日にこの人数の子どもたちが何をしているのだろうか、きっといつも同じメンバーが集まっているいろいろなやっっているのだろうかという雰囲気を感じました。生き生きと活動している中学生に見えないという感じがします。第一中学校と第三中学校は街中なのでいいのかもしれませんが、他の中学生がどうやって来て、何をしているのかと思います。非常に素晴らしい事業だと思うものの、1カ所に50万円も予算をあてがわれて実施している教育委員会の方々も苦しいのではないかと逆に思うくらい心配になります。

(生涯学習課長)

1カ所に50万円という予算はあくまでも放課後子ども教室の方です。「BiBi っとスペース」については基本、大学生が行っていますので人件費というのはほとんどゼロで、その場所まで行くタクシーや電車の交通費を市で出しています。1カ所にそんなにかかっていませんし、大

学から近い所であればコストもかからないため、ほとんどかかっていないというのが現状です。

開設の時間帯は、第一中学校と第三中学校と協議をしてその時間帯にしていますので、まだ授業等が終わっていないのかもしれませんが、学校と協議のうえ定めているのでその時間にやらせていただいています。テストが近くなると来たり、部活や中体連が忙しいと来ることが出来なかったりとなっています。

申し込みは取っていませんので、来るのも来ないのも自由で、それでも来ている子どもたちは固定しているのではないかと思っています。大学生に勉強を見てもらいたい、話をしたいなどの理由で集まっているのかと思っています。

「BiBi っとスペース」は時間割も何も無く、学びたい時は学ぶ、遊びたい時は遊ぶ、というものの中学生になると魅力がないと来てもらえないため、その辺はいろいろ中身を考えていかなければならないと思っています。

(成田委員)

自分の孫が利用したらと考えてみると、放課後児童健全育成事業は全員が対象ではなく、対象がありほぼ毎日やっている。放課後子ども教室事業は全員が対象で、週1か隔週でやっている。なかよし会の子どもたちが放課後子ども教室事業に参加することも可能ですよね。去年の実績で、普段はなかよし会や児童クラブに行っているが、放課後子ども教室の日はこちらに来るとするのはどれくらいいますか。

(生涯学習課長)

今やっている西小学校と松原小学校、第三大成小学校は一体型といたしまして、学校の中でなかよし会と放課後子ども教室をやっています。そこで見ると放課後子ども教室に来ているのはおおよそ3～5人くらいがなかよし会と重なっています。

(成田委員)

今話があったように一体で実施すると、放課後子ども教室がある時は放課後子ども教室で過ごそう、ない時はなかよし会で過ごそうということで、場所の移動もなくて、放課後健全育成事業をやる方と放課後子ども教室事業をやる方とお互いに現場のプログラムなど何を目的とするかということ話し合っやるともっと良くなるのではと思います。

学習機会均等ということでは「BiBi っとスペース」はおもしろいと思います。これはやはり普段毎日の勉強でわからないところは「BiBi っとスペース」で聞こうということ子どもたちに指導者が話をしていくといいのではないか。それぞれの事業の目的が違い、予算も違うと思うのでそれぞれ伺っていますが、利用する側が戸惑わないプログラムにしてほしい。あとは実施する側で予算などをいろいろ整理されるといいので

はと思います。そうすることで協力スタッフの確保ももう少し重なる部分も出てくるのではないかと思います。

(生涯学習課長)

今の件ですが、放課後子ども教室となかよし会とお互いに補助金が入っています。その補助金がつく条件を考えるとどうしても分けて考えなければいけないので、それを何とか同じ場所でできないかということの子育て支援課と話をしています。学校でも教室に限りがありますので、なかよし会をこちらで、放課後子ども教室はこちらでと場所が丁度よくなり、子育て支援課と補助金をもらえる範囲の中でどうにかできないかという話はしていますが、今のところこうしたらいいという案が無く、これから時間をかけて探っていきたいと思っています。

(松本委員)

質問ですが、放課後子ども教室は体験がメインで「BiBi っとスペース」は学習がメインなのはわかりましたが、先ほどの話の中で「BiBi っとスペース」の中でも中学校は学習メインでそれ以外は多様だという話があったかと思いますが、それはそういう理解でいいのですか。

(生涯学習課長)

現状では、小学生を対象とした「BiBi っとスペース」と中学校を会場にして中学生を対象とした「BiBi っとスペース」があります。29年度以降のこれから増やしていく放課後子ども教室については、学習活動をメインとした「BiBi っとスペース」を中学生向けに、体験学習をメインとした放課後子ども教室を小学生向けにというこれからの話と考えていただければよろしいかと思います。分かりづらいかと思いますが、今後ということで考えていただければと思います。

(松本委員)

なぜそれを聞いたのかといいますと 数を増やすのは勿論いいと思いますが、なかよし会等の学童保育と違うのは体験メインの所と学習メインの所と活動内容が違うわけですね。学童保育の場合は全部学童保育で、おそらくなかよし会でも児童クラブでもほとんど内容は同じだと思うのですが、これだと活動内容が変わってしまう恐れがあり、それを子どもが選べないのが問題なのであって、先ほど意見としてありましたが、場所を増やすのであれば、誰でも利用しやすいようにやるなど、あるいは活動内容を住民の人たちが決めるようにしていくというところもあれば、うちは放課後子ども教室を設置していこうとか、「BiBi っとスペース」はやっぱり重要だよねということを市の方で決めるのもいいですが、住民側の意見を聞くというのも大事かと思いました。

(生涯学習課長)

そのために地域コーディネータという方が地域にいて、そのコーディネータがその地域のものを生かして学習プログラムを作っていければい

いかと考えています。それが地域コーディネータの役割の一つということになります。

(松本委員)

先ほどから出ているように中心となる人たちの育成、研修が大事になってくるので、そこは市としても取り組まれた方がいいと思います。

学童保育との違いでいうと学童保育は指導員の方が専門的な研修を受ける機会が多いわけで、こちらは受ける機会がないというわけにもいえないと思います。ただ単に勉強を教えればよいというわけではなく、ただ単に体験されればよいというわけでもないと思います。先ほど指摘もあったように雰囲気や暗いなど関わる人の意識や態度によって変わってくるので、その辺りは何か取り組まれた方がいいと思います。

やはりスタッフを持続的に確保していくことが大事だと思うのですが、学生さんはあくまで授業の一環として1年生が主に受ける授業なので、その授業が終わったらあとは終了になるというのがもったいないと思いますし、2年生向けの授業がありますが、継続的に授業でなくても参加できるように声掛けや仕組みをつくるなど、その辺りは県のキャリアサポートの方はうまくやっているのかと思います。学生の方で団体を組織して、そのように関わるような集団づくり、組織づくりをしていくのも一つあっていいのかと思います。

(生涯学習課長)

コーディネータの育成につきましては、先ほども話をしたようにこれから増やしていくということもありますので、研修など育成方法を含め考えていきます。

それから弘前大学の学生については、こちらの考えだけでは進めていきませんので、弘前大学と話し合いをしながら考えていきたいと思えます。

(佐藤委員)

高校では、弘前大学からサポーター実習というので週に1回来て、年間を通してサポートしてもらっていました。大学生も年間を通じて月4回か、あるいは人数をローテーションするともっと少ないため通年でやれるのかもしれませんが。

また、併せて、これは行政の方が作るのかチームが作るのかわかりませんが、他県でもいいですし、学習活動の具体的な例、こういうものがありますというリストアップ、体験活動のリストアップ、交流活動のリストアップをして、これをやれというのではなく、こんなことが行われています、ホームページがありますよ、というような最初のスタートの段階ですね。そのようなことをやっていくとかなり充実するのでないかと思えます。

それから指導は小学校、中学校ではどうなのでしょう。高校では

「BiBi っとスペース」や放課後子ども教室については把握しきれていません。1月頃から退職される方のために、行政からこういう支援員を必要としているというのをA4でもいいですので、そういのをうまく利用したらどうでしょう。退職してすぐであればまだやってみようかなという意欲はあります。4・5年経つと……。そういうアピール、皆さんの力が必要ですよと訴えていって欲しいと思います。

(生涯学習課長)

今の話の中で人材の確保ということで、教職員のOBの方を国の方では積極的に活用していただきたいとあります。実際、松原小学校のスタッフを探していた際に、全体にチラシを配布するのは厳しいと考えていました。その地区だけでOBの方を探していますというチラシを配布するのであれば町会長にお願いできたらということも考えていました。ただ紙を配布しただけではなかなか応募してくれないため、町会長や地域の方に情報提供していただきながら進めていきたいと思っています。

(議長)

一通り出ましたが、ここにいらっしゃる方の一番の感触は何か見えない感じなのではないかと思っています。

私も事前に打ち合わせをさせていただいた際には、できるだけプログラムなど実際どうやっているのかを出してほしいという話はしましたが、波及効果ということに触れていただきながら話をしていただきました。

この会議の今日の協議の話題として、やはり数を増やすにしても、誰が動かすのかということを中心に考えていかないといけないのではないかとということが一番出た質問や意見だったと思います。

例えば、どのように人材を確保し、そういう方々をどのように研修していくのかということ。研修といっても単に保育関係の方が集まって研修するというのもそれはそれで大事ですし、先ほど佐藤さんが言われたようにプログラム・企画を自分たちで作っていき、それを今度市内の方々と共有していくことでの研修なども求められるだろうと。

例えば 一回一回振り返りのノートを作ってください、それを蓄積していくということも必要だと思いますので、そういう現場での実践などコーディネータ自身の学びというものもつくっていきけるような体制を整えていただきながら、ただ数を増やすというのではなくて地域を支える大人達を育てていくというような意識を持っていただくということが必要なのではと思います。

地域コーディネータの境さんから話を聞きましたが、そこで言われたことは、自分たちにどこまでの職務権限があるのか、子どもたちの安全管理の問題、個人情報の問題、市役所からも来年予算がつくのかかわらないため、まだ考えないで欲しいと言われるなど、そういうことにとて

も不安があるということも現場の声として聞いています。

単に研修するというよりは、大事なのはコーディネータで、しかもそれが地域コーディネータという長期的ビジョンで育てていくということで考えてもすぐには出てくるものではないですよね。少しずつ育まれて、コーディネータ自身も育まれていくことであって、放課後子ども教室の地域コーディネータがどういう職務権限でやっていくのかという規定や学校とどう関わっていくかについての内規でもいいですがそういうのを書面で出していった形を作っていくことが必要だと思います。もう3年程やられているわけですから、そういうことで出てくる実務的な課題もあるかと思いますが、それも踏まえて作っていくということで、その場しのぎでやっていくという状況ではなくなっているのではないかと思います。

あとは年度毎の地理的な子どもたちの差異というのも考えないといけませんし、補助金が切られたら来年あるかどうか分からないということに関しては、学年を超えての差異というのも出てきます。その辺は補助金があるからというのではなく、弘前市としてはこうなので補助金をこう活用していくという視点に立っていかないと継続性というのは担保されていかないのでないかということを感じています。そういう意味では、なかよし会など今あるものと連携させてやっていっていただきたいと思います。

(高木委員)

最後の所の喫緊の課題として、貧困が世代を超えて連鎖するとありますが、個人的な感じですが、「BiBi っとスペース」などを活用している子どもたちを見ていると、本当にその子どもたちがここに通っているのかどうかの若干の疑問があります。逆にわざわざここに来なくても、家庭的に恵まれていて、ここに来ると楽しいからここに来てやっている子どもが多いのかなと思ったりもします。その辺を学校の方で、来ている子どもの名簿をもらって、この子どもたちの中で本当に家庭が厳しくて通っている子どもがいるかなど、そういうアンケートをとって見たら、本当にこの事業が生きていっているのかという検証になるのではないかと思います。

(議長)

そういう意味でも子どもたちを見ている人たちこそ、そういうのが見えてくると思いますので、それぞれ現場でやっているコーディネータや支援員の方々の声がきちんとこういう報告の中に反映されてくるとより議論しやすいかと思います。

今後もこのように実施されているということで、いろんな場面で見ただけで興味を持っていただければと思います。

ではこの件に関しましてはこれで終了とさせていただきます。

	<p style="text-align: center;">~~~~~</p> <p>報告</p> <p>①弘前市立弘前図書館及び弘前市立郷土文学館古文書等デジタル化基本計画の策定について</p> <p>②弘前市立公民館管理運営規則の改正について</p> <p>③青森県地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業について</p> <p>④第 38 回全国公民館研究集会・平成 28 年度東北地区社会教育研究大会第 61 回東北地区公民館大会福島大会参加報告について</p> <p>(説明)</p> <p>(質疑応答)</p> <p>情報提供</p> <p>・「地域とともにある学校づくりに向けて～弘前市立小・中学校の教育改革に関する基本方針～」について</p> <p>(説明)</p> <p>(質疑応答)</p> <p style="text-align: center;">~~~~~</p> <p>(議長)</p> <p>本日の会議は、以上になります。 ご協力ありがとうございました。</p> <p>(生涯学習課総括主幹)</p> <p>これもちまして、平成 28 年度第 2 回弘前市社会教育委員会議を閉会いたします。 本日は大変お疲れ様でした。</p>
<p>その他必要事項</p>	<p>・会議は公開</p> <p>・傍聴者なし</p>